

「2025年度実務経験のある教員等による授業科目」一覧

<介護福祉科>

科目名	時数	年次	教員名	実務経歴
介護過程Ⅰ	60	1	丸岡 晃嗣	介護福祉士として実務

科目名	時数	年次	教員名	実務経歴
介護総合演習Ⅰ	60	1	美谷島 正行	介護福祉士として実務

科目名	時数	年次	教員名	実務経歴
こころとからだのしくみⅠ	60	1	芦田 徳子	看護師として実務

科目名	時数	年次	教員名	実務経歴
人間関係とコミュニケーション	60	2	森川 友紀子	介護福祉士として実務

寄附行為に基づく理事・監事名簿

理事

任期 令和 7 年 5 月 30 日から令和 11 年度の定時評議員会終結時まで

寄附行為第 7 条第 1 項	現 行	代表権を有する理事	人数
① 設置学校校長（1 人～2 人） 評議員会において選任	瀧 野 博 史 平 尾 克 英		1 人～2 人
②職員（3 人～4 人） 評議員会において選任	本 部 広 樹 木 原 茂 弘 脇 坂 正 宏	理 事 長	3 人～4 人
③上記のほか（2 人） 評議員会において選任	● 本 部 真 理 子 ● 中 西 紳 也		2 人

●学外者

監事

任期 令和 7 年 5 月 30 日から令和 11 年度の定時評議員会終結時まで

寄附行為第 22 条	現 行	人 数
評議員会において選任	林 田 洋 木 村 直 義	2 人

2. 学外者である理事の一覧表

常 勤 ・ 非 常 勤 の 別	前 職 又 は 現 職	任 期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	前職 小学校教諭 現職 民生委員等	令和 7 年 5 月 30 日 ～ 令和 11 年度定時評議員会 終結時	地域社会と学校の連携等について、教育的視線と生徒保護者の目線で意見を聞く。
非常勤	前職 京都廣学館高等学校長 同教育顧問	令和 7 年 5 月 30 日 ～ 令和 11 年度定時評議員会 終結時	50 年の教育経験に基づいた意見を聞く
(備考)			

成績の分布を表す資料

《GPAの分布状況》 介護福祉科 R6年度 1年生（生徒数：31人）

番号/教科	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	平均	GPA区分
1 2409	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	3	3	3	3	2.95	GPA3.0以上
2 2425	3	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2.95	GPA2.0以上3.0未満
3 2416	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2.9	GPA1.0以上2.0未満
4 2431	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	3	3	3	3	2	3	3	3	3	2.9	GPA1.0以上2.0未満
5 2412	3	3	1	3	3	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2.85	GPA1.0以上2.0未満
6 2406	3	2	3	3	3	3	3	2	3	3	2	3	3	3	3	3	3	3	2	3	2.8	GPA1.0未満
7 2417	3	2	3	3	3	3	3	3	3	3	2	3	3	3	3	3	2	2	3	3	2.8	GPA1.0未満
8 2420	3	2	3	3	3	3	3	3	3	3	2	3	2	3	2	3	3	3	3	3	2.8	GPA1.0未満
9 2401	3	1	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	1	3	3	3	2	3	3	2.75	GPA1.0未満
10 2411	1	2	3	3	3	3	3	3	3	3	2	3	2	3	3	3	2	3	3	3	2.7	GPA1.0未満
11 2424	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	3	2	3	3	3	2	2	3	3	2.7	GPA1.0未満
12 2402	2	2	2	3	3	3	3	2	3	3	2	3	3	3	3	3	3	2	2	3	2.65	GPA1.0未満
13 2410	3	1	3	3	3	3	1	3	3	2	3	3	3	2	3	3	3	3	2	3	2.65	GPA1.0未満
14 2429	3	2	3	3	3	3	2	3	2	2	2	2	3	2	3	3	3	1	3	3	2.55	GPA1.0未満
15 2414	3	1	3	3	3	3	3	3	3	3	2	3	1	3	3	1	3	1	2	3	2.5	GPA1.0未満
16 2415	3	2	1	3	3	3	1	3	3	2	1	3	3	3	3	3	3	1	3	3	2.5	GPA1.0未満
17 2419	3	1	3	3	3	3	2	2	3	3	2	2	2	1	2	3	3	2	1	3	2.35	GPA1.0未満
18 2427	3	3	1	3	3	2	3	3	3	2	1	3	2	3	2	1	1	1	1	3	2.2	GPA1.0未満
19 2422	3	2	1	3	3	2	2	2	2	2	1	2	2	1	3	3	3	2	1	3	2.15	GPA1.0未満
20 2430	3	3	3	3	3	1	2	1	2	1	2	2	1	3	3	1	3	1	1	3	2.1	GPA1.0未満
21 2403	1	1	3	3	3	2	3	1	3	2	1	2	1	3	2	1	1	3	2	3	2.05	GPA1.0未満
22 2418	2	2	2	3	3	1	2	3	2	1	2	1	2	3	1	3	3	1	1	3	2.05	GPA1.0未満
23 2407	2	3	1	3	3	3	2	2	2	1	1	3	2	3	1	1	2	1	1	3	2	GPA1.0未満
24 2421	1	2	1	3	3	3	2	3	3	2	1	2	2	2	1	1	2	2	1	3	2	GPA1.0未満
25 2426	2	1	2	3	3	3	2	1	2	1	2	1	1	2	2	3	2	3	1	3	2	GPA1.0未満
26 2408	1	3	1	3	3	3	2	2	2	1	1	3	2	2	1	1	2	1	1	3	1.9	GPA1.0未満
27 2423	1	1	2	3	3	2	3	1	2	1	1	1	1	1	2	3	1	3	1	3	1.8	GPA1.0未満
28 2428	1	2	1	3	3	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	3	1.4	GPA1.0未満
29 2405	1	1	1	3	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	1.25	GPA1.0未満
30 2413	3	3	3	3	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.85	GPA1.0未満
31 2404	0	2	1	3	0	1	0	0	3	0	0	0	0	3	0	0	0	3	0	0	0.8	GPA1.0未満

下位GPA1/4
GPA : 1.9以下 (6名)

授 業 概 要 (令和7年度)

授業のタイトル(科目名)		授業の種類		授業担当者	
介護過程Ⅰ(30時間)		演 習		丸岡 晃嗣	
講義回数	時間数(単位数)	担当学年・時期		必修・選択	
90分×15回	1単位	1年	通年(前期)	必修	

〔授業の目的・ねらい〕

他科目で学習した知識や技術を統合し、介護過程を展開し、介護計画を立案して適切なケアサービスが提供できる能力を養うために、学生自身が知識や技術を統合しケアに活かす意味を理解する。

〔授業全体の内容の概要〕

利用者にとって最善のケアを実践するために、生活上の課題(ニーズ)を明確にしていく介護過程の意義・目的を知る。実際の事例を例に取り、ICFモデルを活用した情報収集ができる。

〔授業終了時の達成課題(到達)〕

利用者の個別的ニーズを的確に把握し、目的意識的に介護計画を実施し評価考案していく。
ことの連続が介護過程であることと、ケアの実施において利用者の尊厳と科学的根拠に基づいた所持機能(できる活動)を引き出す重要性を学ぶ。

〔授業の進行状況〕

		実 施 日
1	オリエンテーション 人間の生活を支えるものについて(人文字) 実習の時期 ファイル配付	
2	介護過程とは何か・介護過程の意義について	
3	介護過程の意義と人間の生活について(アセスメント:イラストを見てグループワーク)	
4	高齢者とはどういう方なのか 自分の85歳を考える	
5	“介護過程の展開” フェイスシート 6号用紙 アセスメントとは	
6	より良い生活を目指す介護過程とは… ADL ICF ICF とは…	
7	生活支援システムにおける医学モデルと生活モデル (ICFの視点から考える) 小テスト	
8	介護過程の体系 (介護過程の構造と目的) 、要望とニーズの関係	
9	アセスメントの意味 (介護過程におけるアセスメント) 6号用紙の説明	
10	アセスメントの意味 (直接的・間接的な情報収集とICFを活用した情報収集)	
11	ICFとは 最初に考えた印象・その後の理解 6号用紙(利用者の特性・ジェノグラム)記入	
12	アセスメントと生活課題 (事例を基に説明) 7号用紙の説明・演習	
13	事例を基に(介護過程②)情報収集・課題分析(アセスメント)に関する項目 記入実践	
14	ICに基づくアセスメント 演習	
15	ICFの演習まとめ 前期のまとめ	

〔使用テキスト・参考文献〕

中央法規 介護福祉養成講座「介護過程」

* 参考資料

〔単位認定の方法及び基準〕

筆記試験・小テスト・授業態度・レポート提出・ノート提出にて評価

※筆記試験は後期に実施(通年)

授 業 概 要

(令和7年度)

授業のタイトル(科目名)		授業の種類		授業担当者	
介護過程Ⅰ(30時間)		演 習		丸岡 晃嗣	
講義回数	時間数(単位数)	担当学年・時期		必修・選択	
90分×15回	1単位	1年	通年(後期)	必修	
[授業の目的・ねらい] 他科目で学習した知識や技術を統合し、介護過程を展開し、介護計画を立案して適切なケアサービスが提供できる能力を養うために、学生自身が知識や技術を統合しケアに活かす意味を理解する。					
[授業全体の内容の概要] 利用者にとって最善のケアを実践するために、課題を明確にしていく介護過程の意思を身につける。 実際の事例を例に取り、グループワークやロールプレイングを行い発表する。。					
[授業終了時の達成課題(到達)] 利用者の個別的ニーズを的確に把握し、目的意識的に介護計画を実施し評価考案していく。 ことの連続が介護過程であることと、ケアの実施において利用者の尊厳と科学的根拠に基づいた所持機能を引き出し、生活を維持することの重要性を学ぶ。					
[授業の進行状況]					
					実施日
16	復習(前期授業の振り返り) *福祉リレーずいそう「生きたいように生きる」				
17	事例A演習①:フェイスシート6号用紙(介護過程①) ～利用者の特性・受け持つ動機～				
18	情報の解釈の仕方(*事例を基に) デマンドとニーズの違い				
19	事例A演習②:アセスメント 7号用紙(介護過程②) ～情報収集・課題分析～				
20	事例A演習③:アセスメント 8号用紙(介護過程③) ～分析・統合・日常生活上の課題～				
21	事例A演習④:アセスメント 8号用紙(介護過程④) ～分析・統合・日常生活上の課題～				
22	日常生活上の課題とニーズの抽出表現の仕方と優先順位について				
23	日常生活上の課題と優先順位検討する判断基準について③				
24	日常生活上の課題と個別援助計画立案について(長期目標・短期目標)④				
25	生活支援システムにおける医学モデルと生活モデル(ICFの視点から考える)				
26	事例B 演習①:フェイスシート6号用紙(介護過程①) ～利用者の特性・受け持つ動機～				
27	事例B 演習②:アセスメント 7号用紙(介護過程②) ～情報収集・課題分析～				
28	事例B 演習③:アセスメント 7・8号用紙(介護過程③) ～分析・統合・日常生活上の課題				
29	事例B 演習④:アセスメント 9号用紙(介護過程④) ～個別援助計画の立案、評価・考察				
30	事例B 演習⑤:アセスメント 9号用紙続き まとめ ケアニン「折り鶴の思い出」				
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]			
中央法規「介護過程」、その他		(試験やノート・事例演習・出席状況の評価基準など)			

授 業 概 要(令和7年度)

授業のタイトル		授業の種類		授業担当者	
介護総合演習Ⅰ		講義		美谷島 正行	
講義回数	時間数(単位数)	担当学年・時期		必修・選択	
30回	60単位	1年	前期・後期・通年	必修	
〔授業の目的・ねらい〕					
①居宅・通所・入所など介護サービスを利用される方の生活像と介護福祉士の役割が理解できる。					
②実習に必要な基本的コミュニケーション方法やマナー、記録の重要性について理解する。					
③実習先となる施設の特徴を理解できる					
④実習のイメージを膨らませ、自身の目標を具体的にたてることできる。					
⑤次の実習に向けての課題を導き出し、					
〔授業全体の内容の概要〕					
①施設の理解について、学内の講義の他、見学を通して実際の施設の役割や介護福祉士の役割の理解を深める。					
②介護福祉士専門職として、マネジメント力を養うために学校行事の運営や講義内でのグループワークなど、主となって進行・運営できる。					
〔授業終了時の達成課題(到達)〕					
①実習を通して目標の達成具合や課題を導き出し、次の実習に向けての目標ならびに学習課題を明確にする。					
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕					
1 授業オリエンテーション「介護総合演習の位置づけ」					
2 介護総合演習の目的 「介護実習の目的と意義」①					
3 介護総合演習の目的 「介護実習の目的と意義」②					
4 区分Ⅰ実習に向けて 施設の理解「居宅介護サービス」(訪問介護)①					
5 区分Ⅰ実習に向けて 施設の理解「居宅介護サービス」(訪問介護)②					
6 区分Ⅰ実習に向けて 実習交流会					
7 区分Ⅰ実習に向けて 施設の理解「居宅介護サービス」(介護保険について)					
8 区分Ⅰ実習に向けて 施設の理解「居宅介護サービス」(通所介護)①					
9 区分Ⅰ実習に向けて 施設の理解「居宅介護サービス」(通所介護)②					
10 区分Ⅰ実習に向けて 施設の理解「居宅介護サービス」(通所リハビリテーション)①					
11 区分Ⅰ実習に向けて 施設の理解「居宅介護サービス」(通所リハビリテーション)②					
12 区分Ⅰー① 実習オリエンテーション					
13 区分Ⅰー① 実習の振り返り(1日目)※実習記録の作成					
14 区分Ⅰー② 全体オリエンテーション「実習施設と目標設定」					
15 区分Ⅰー② 個別目標指導					
16 まとめ					
17 区分Ⅰー② 実習に向けて「就職ガイダンス」 下殿様					
〔使用テキスト・参考文献〕			〔単位認定の方法及び基準〕		
介護総合演習・実習指導 第3版 (中央法規)			筆記試験 60点(前・後期ともに試験)		
			授業姿勢(レポート点・提出期限含む) 30点		
			出席 10点		

授 業 概 要(令和7年度)

授業のタイトル		授業の種類		授業担当者	
介護総合演習Ⅰ		講義		美谷島 正行	
講義回数	時間数(単位数)	担当学年・時期		必修・選択	
30回	60単位	1年	前期・後期・通年	必修	
〔授業の目的・ねらい〕 ①居宅・通所・入所など介護サービスを利用される方の生活像と介護福祉士の役割が理解できる。 ②実習で必要な基本的コミュニケーション方法やマナー、記録の重要性について理解する。 ③実習先となる施設の特徴を理解できる ④実習のイメージを膨らませ、自身の目標を具体的にたてることできる。 ⑤次の実習に向けての課題を導き出し、					
〔授業全体の内容の概要〕 ①施設の理解について、学内の講義の他、見学を通して実際の施設の役割や介護福祉士の役割の理解を深める。 ②介護福祉士専門職として、マネジメント力を養うために学校行事の運営や講義内でのグループワークなど、主となって進行・運営できる。					
〔授業終了時の達成課題(到達)〕 ①実習を通して目標の達成具合や課題を導き出し、次の実習に向けての目標ならびに学習課題を明確にする。					
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕 18 区分Ⅱ－①に向けて(目的とねらい) ※前期の振り返り① 19 区分Ⅱ－①に向けて(目的とねらい) ※前期の振り返り② 20 区分Ⅱ－①に向けて 施設の理解「施設サービス」： 介護老人保健施設① 21 区分Ⅱ－①に向けて 施設の理解「施設サービス」： 介護老人保健施設② 22 区分Ⅱ－①に向けて 施設の理解「施設サービス」： 介護老人保健施設③ 23 区分Ⅱ－①に向けて 施設の理解「施設サービス」： 特別養護老人ホーム① 24 区分Ⅱ－①に向けて 施設の理解「施設サービス」： 特別養護老人ホーム② 25 区分Ⅱ－①全体オリエンテーション／目標指導 26 区分Ⅱ－①個別目標指導 27 区分Ⅱ－①に向けて 施設の理解「施設サービス」： 特別養護老人ホーム③ 28 区分Ⅱ－①に向けて 施設の理解「施設サービス」： 介護医療院① 29 区分Ⅱ－①に向けて 施設の理解「施設サービス」： 介護医療院② 30 まとめ					
〔使用テキスト・参考文献〕 介護総合演習・実習指導 第3版 (中央法規)		〔単位認定の方法及び基準〕 筆記試験 60点(前・後期ともに試験) 授業姿勢(レポート点・提出期限含む) 30点 出席 10点			

授業概要 (2025年度)

授業のタイトル		授業の種類		授業担当者	
こころとからだのしくみⅠ		講義		芦田 徳子	
講義回数	時間数(単位数)	担当学年・時期		必修・選択	
(該当回数に(○)印)	(担当時間・単位数に(○)印)	(担当学年・時期に(○)印)		[必修・選択に(○)印]	
30・60	1年・2年	1単位・4単位	1年・2年	前期・後期 通年	必修・選択

〔授業の目的・ねらい〕

介護実践の根拠となる人間の心理や人体の構造・機能を理解する。
こころとからだの両面から利用者の状況を見ることができ、適切な介護方法を考える。

〔授業全体の内容の概要〕

- 1.多様化している介護サービスに対応できる専門性の根拠となる「こころとからだのしくみ」を学ぶ。
- 2.人間の基本的欲求や生命維持のしくみを理解したうえで、生活援助の介護実践でその関連性を学ぶ。

〔授業終了時の達成課題(到達)〕

- 1.こころやからだのしくみを理解することができる。
- 2.こころとからだの状態が日常生活にどのように関与しているか、そのしくみを理解することができる。
- 3.正常(普段)と異常(いつもと違う)を生活場面で観察することができる。
- 4.利用者の状況にあわせた適切な行動を考え、述べることができる。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕

コマ数	授業予定	
1	本授業を学ぶ目的について、健康の考え方について、病気概念、こころとは、からだとは	
2	マズローの欲求階層説、自己実現と人間の尊厳について	
3	人体の各部の名称と各臓器、骨、筋肉	
4	脳の仕組み、はたらきを理解する	
5	こころのしくみ「学習」「記憶」、認知症について	
6	こころのしくみ「思考」「感情」「意欲」「動機」	
7	こころのしくみ「ストレス」「適応」「防衛機制」、高齢者の人格と適応	
8	脊髄神経、脳神経、中枢神経と末梢神経について	
9	こころとからだの連携、ホメオスタシス、自律神経、人体の行動とはたらき「内分泌系」	
10	人体の構造とはたらき「血液の働き」「リンパ系」「循環器」	
11	人体の構造とはたらき「呼吸器」	
12	人体の構造とはたらき「感覚器」	
13	人体の構造とはたらき「消化器」	
14	食事に関連したこころとからだのしくみ	
15	食事に関連したこころとからだのしくみ	

〔使用テキスト・参考文献〕

教科書:「最新 介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ」中央法規、2022

※必要時参考資料配布します

〔単位認定の方法及び基準〕

(試験やレポートの評価基準など)

筆記試験	70%
提出物	10%
授業態度	10%
小テスト	10%

授業概要(2025年度)

授業のタイトル		授業の種類			授業担当者	
こころとからだのしくみⅠ		講義			芦田 徳子	
講義回数	時間数(単位数)		担当学年・時期		必修・選択	
(該当回数に(○)印)	(担当時間・単位数に(○)印)		(担当学年・時期に(○)印)		[必修・選択に(○)印]	
30・60	1年・2年	1単位・4単位	1年・2年	前期・後期・通年	必修・選択	
[授業の目的・ねらい]						
介護実践の根拠となる人間の心理や人体の構造・機能を理解する。 こころとからだの両面から利用者の状況を見ることができ、適切な介護方法を考える。						
[授業全体の内容の概要]						
1.多様化している介護サービスに対応できる専門性の根拠となる「こころとからだのしくみ」を学ぶ。 2.人間の基本的欲求や生命維持のしくみを理解したうえで、生活援助の介護実践でその関連性を学ぶ。						
[授業終了時の達成課題(到達)]						
1.こころやからだのしくみを理解することができる。 2.こころとからだの状態が日常生活にどのように関与しているか、そのしくみを理解することができる。 3.正常(普段)と異常(いつもと違う)を生活場面で観察することができる。 4.利用者の状況にあわせた適切な行動を考え、述べるすることができる。						
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]						
コマ数	授業予定					
16	病気や障害とこころとからだ、介護福祉職に必要な薬の知識					
17	人体の構造とはたらき「皮膚」、入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ					
18	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ					
19	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ					
20	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ					
21	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ					
22	人体の構造とはたらき「泌尿器系」「生殖器系」					
23	排泄に関連したこころとからだのしくみ					
24	排泄に関連したこころとからだのしくみ					
25	移動に関連したこころとからだのしくみ					
26	移動に関連したこころとからだのしくみ					
27	身じたくに関連したこころとからだのしくみ					
28	身じたくに関連したこころとからだのしくみ					
29	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ					
30	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ、後期試験の説明					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]			
教科書:「最新 介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ」中央法規、2022			(試験やレポートの評価基準など)			
※必要時参考資料配布します			筆記試験	70%		
			提出物	10%		
			授業態度	10%		
			小テスト	10%		

授 業 概 要(令和7年度)

授業のタイトル		授業の種類		授業担当者	
コミュニケーション技術		演習		森川 友紀子	
講義回数	時間数(単位数)		担当学年・時期		必修・選択
(該当回数に(○)印)	(担当時間・単位数に(○)印)		(担当学年・時期に(○)印)		[必修・選択に(○)印]
(30) 60	(1年・2年	(2単位)4単位	(1年) 2年	前期・後期(通年)	(必修) 選択
【授業の目的・ねらい】					
人は心身共に健康で幸福な暮らしを強く願う存在である。そういった上でも対人援助職である介護福祉士の役割は大きい。介護が対人援助職である以上、その様々な援助の基本となるコミュニケーション技術を身につけることは必須である。					
【授業全体の内容の概要】					
対人援助としてのコミュニケーションを学ぶ上で「自己覚知」「自己開示」をすること。援助サービスを「提供する側」と「利用する側」の相互主体的な関係を築くためのコミュニケーション技術を語法を知ることを目指す。					
【授業終了時の達成課題（到達）】					
1.自己覚知と自己開示を通して援助者としての態度を身につける。					
2.コミュニケーションの構成要素を知り、テクニックを身につける。					
3.カウンセリング技法からコミュニケーション技術を知る。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】					
コマ数					
1	コミュニケーション技術とは（対人援助職とは）				
2	コミュニケーションの基本				
3	コミュニケーションの基本				
4	コミュニケーションの基本技術（傾聴）				
5	コミュニケーションの基本技術（受容・共感）				
6	コミュニケーションの基本技術（言語コミュニケーション・非言語コミュニケーション）				
7	コミュニケーションの基本技術（目的別のコミュニケーション技術）				
8	コミュニケーションの基本技術（目的別のコミュニケーション技術）				
9	コミュニケーションの基本技術（集団におけるコミュニケーション技術）				
10	対象者の特性に応じたコミュニケーション①（コミュニケーション障害への基本対応）				
11	対象者の特性に応じたコミュニケーション②（認知症のある人への支援）				
12	利用者の特性に応じたコミュニケーション③（認知症のある人への支援）				
13	プロセスレコード①				
14	プロセスレコード②				
15	利用者の特性に応じたコミュニケーション⑥（視覚障害・聴覚障害のある人への支援）				
〔使用テキスト・参考文献〕 コミュニケーション技術（第3版） （中央法規）			〔単位認定の方法及び基準〕 筆記試験 レポート評価 実技テスト（グループワーク）評価		

授 業 概 要(令和7年度)

授業のタイトル		授業の種類		授業担当者	
コミュニケーション技術		演習		森川 友紀子	
講義回数	時間数(単位数)		担当学年・時期		必修・選択
(該当回数に(○)印)	(担当時間・単位数に(○)印)		(担当学年・時期に(○)印)		[必修・選択に(○)印]
③0 60	①年・2年	②単位・4単位	①年・2年	前期・後期・③通年	③必修・選択
〔授業の目的・ねらい〕 人間にとってのコミュニケーションは不可欠なものである。しかし同時に一瞬にして築き上げた人間関係も崩れるというリスクも含んでいる。それゆえ、良い人間関係を構築するためのコミュニケーション技術は熟練されたもてなくてはならない。					
〔授業全体の内容の概要〕 前期では人間関係を構築するためのコミュニケーション技術を学習した。後期はそれを受け、さらに技法を身につけるため様々な想定でロールプレイやグループワークを行い、実践的なコミュニケーション技術を身につけることを目指す。					
〔授業終了時の達成課題（到達）〕 1.コミュニケーション技術がスムーズに駆使できる。 2.自分自身のコミュニケーションを振り返る。 3.様々な心身状態に応じたコミュニケーション技術を理解する。					
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕					
コマ数					
1	さまざまなコミュニケーション障害のある人の支援（構音障害・失語症の人への支援）				
2	さまざまなコミュニケーション障害のある人の支援（鬱・抑鬱のある人への支援）				
3	さまざまなコミュニケーション障害のある人の支援（統合失調症のある人への支援）				
4	さまざまなコミュニケーション障害のある人の支援（知的障害・発達障害のある人への支援）				
5	さまざまなコミュニケーション障害のある人の支援（高次脳障害のある人への支援）				
6	さまざまなコミュニケーション障害のある人の支援（重症心身障害者障害のある人への支援）				
7	家族とのコミュニケーション				
8	家族とのコミュニケーション				
9	介護におけるチームコミュニケーション①（チームコミュニケーションとは）				
10	介護におけるチームコミュニケーション②（報告・連絡・相談）				
11	介護におけるチームコミュニケーション③（記録の技術）				
12	介護におけるチームコミュニケーション④（記録の技術）				
13	介護におけるチームコミュニケーション⑤（記録の技術）				
14	介護におけるチームコミュニケーション⑥（会議・事議事進行・説明の技術）				
15	介護におけるチームコミュニケーション⑦（事例検討に関する技術・情報管理のための技術）				
〔使用テキスト・参考文献〕 コミュニケーション技術（第2版） （中央法規）			〔単位認定の方法及び基準〕 筆記試験 レポート評価 実技テスト（グループワーク）評価		